

とちぎ建築プロジェクト2019

-マロニエBIM設計コンペティション- 審査講評

○日程・場所： 2019年11月26日、宇都宮東武ホテルグランデ

○エントリー期間：2019年10月1日～31日

設計条件(機能プログラム)の発表： 11月3日正午

実施期間： 11月3日正午～6日正午

○審査要領(提出物)

1次審査：BIM-IFCデータ、画像データ、設計趣旨

最終審査：1次審査通過作品の公開審査(動画審査)

○審査委員

審査委員長：ヨコミゾマコト(東京藝術大学教授)

審査委員：石澤幸(竹中工務店設計本部アドバンストデザイン部)

池田靖史(慶應義塾大学教授)

川村定男(とちぎ建設技術センター常務理事)

佐野吉彦(日本建築士事務所協会連合会理事)



■受賞作品・講評

○最優秀賞 : 阿部 仁祐

養清堂アーキテクト建築設計事務所 (神奈川県)

「宇都宮市森林公園サイクルロードセンター」



【講評：ヨコミゾマコト氏】一次審査において自分は、コンセプト、造形性、祝祭性と日常性、計画性、表現力などの観点から各提案を拝見した。その中で阿部案は、当初それほどの高得点ではなかった。しかし公開審査におけるプレゼンテーションビデオと応募者本人へのインタビューにより、大きく評価が変わった。ご息女が造った粘土模型の3Dスキャンデータが元になっていること、72時間一人作業でその建築化をめざしたトライアルの結果であること、この2つの点が明らかになった時点で、それまでの評価軸は一気に形骸化し、他案に対し圧倒的な存在感を持って最優秀賞が確定した。このような人間味ある作品に出会えたことは、テクノロジー進展の望ましい方向性を確認できたという点で大きな喜びだった。

○優秀賞 (ヨコミゾマコト賞) : 林 直哉

麻生建築&デザイン専門学校 (福岡県)

「Wrap」



【講評：ヨコミゾマコト氏】ロードレースのクライマックスのあり方は、選手と観客両者にとっていかにあるべきか、という問いかけからコンセプトを組み上げ、フィニッシュ地点を四方から囲み、選手を歓声で包み込むことのできる造形を生み出した。その設計アプローチは十分な説得力を持っていたし、他者にはない独自性のある提案だった。短い制作時間であったにも関わらず、空間の構成や場の高揚感など、伝えるべきこともしっかりと表現されていた。もし、行き止まりを作らない観客動線の回遊性が付加されていれば、さらに良い案になっていたと思う。

○優秀賞（ヨコミゾマコト賞）：本橋 範一
「グランゲート」

（株）フケタ設計（栃木会）



【講評：ヨコミゾマコト氏】熟度の深い職人と浅い職人では、同じロボットアームを使っても、出来上がるものが全く違うという話を思い出した。提案は、単純な門型のシェルターだが、構造部材だけでなく手摺やルーバーなど、各部の太さや厚みなどに破綻がなく、素材と強度によるプロポーション、光と影による透明感など、基礎的な空間感覚がしっかり身についている方の提案だと思った。BIM や AI が労働としての設計作業環境を変えていくことは確実だが、そのような感覚は設計者やデザイナーにとって益々重要なものになるに違いないと考えさせられた。

○ 優秀賞（石澤宰賞）：樺 浩太
「走り抜ける織込みの隙間」

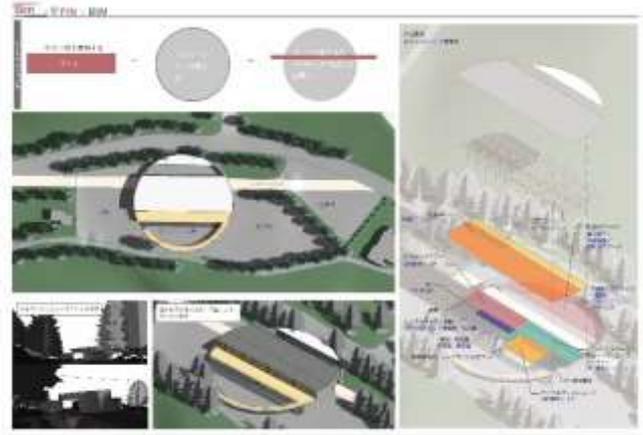
熊本大学大学院（熊本県）



【講評：石澤宰氏】独自の構造提案による基本コンセプトと細部の作り込みをバランス良く実践しており、限られた時間を効率よく使って案を叩き上げていった様子が読み取れた。多くのソフトが苦手とする形状の IFC4 出力にチャレンジし、その結果と思しき欠損部分が見られたが、作り込みレベルは二次審査で十分把握できた。モデルの各要素もバランス良く必要十分であり、データ形式をよく理解していることがわかる。考えながらデジタルに作ることを普段から行っていると思われ、高く評価した。

○優秀賞（石澤幸賞）：鈴江 佑弥
「～PIN BIM～」

株）安井建築設計事務所（大阪会）



【講評：石澤幸氏】設計提案を超えてそのプロセスに踏み込み、各種情報をジオタグ的にモデルと関連付け、各種の非構造化データを属性化しパッケージ化する提案であった。モデルは建具・家具等が若干時間切れと思われたが良く作り込まれており、部分的に自身のコンセプトを実証する試みもあった。構想段階ではさらに魅力ある形状のスケッチも見られ、それを提案として見たかった気持ちは残った。普段からの問題意識をとして見たかった気持ちは残った。普段からの問題意識を72時間の設計を通じて実証するメッセージ性を高く評価した。

○優秀賞（池田靖史賞）：深浦 天
「空気感」

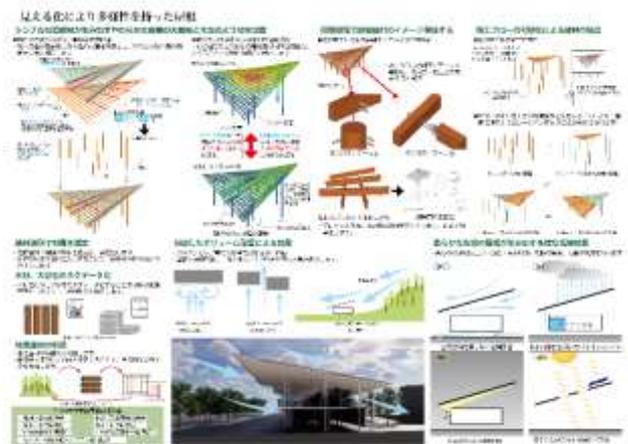
麻生建築&デザイン専門学校（福岡県）



【講評：池田靖史氏】受賞者が弱冠18歳、建築もBIMも始めて7ヶ月ほどだと入選決定後に聞いた時、驚きとともに合点がいった。構造寸法などに学生部門とはいえ問題点が感じられた上でも入選を果たしたのは、駆け抜けるスピード感と心地のいい広がりやを両立させた、絶妙な大屋根の形状に圧倒的なセンスを見せていたからだ。ともすれば、感覚的な創造行為の障害と思われがちなBIMから始めた新しい世代が拓く人間性との融合に大きく期待が膨らんだ。

○優秀賞（池田靖史賞）：番屋 陽平
「未来のにぎわいをつくるBIM」

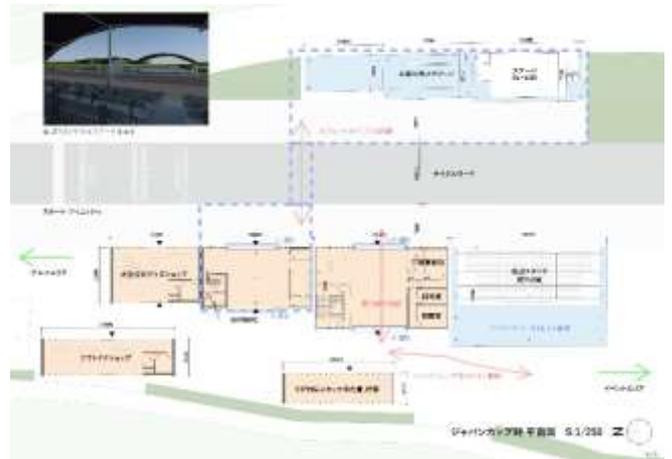
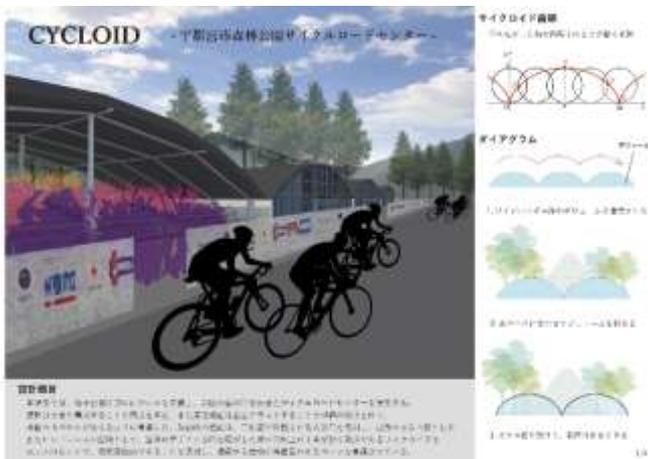
（株）安井建築設計事務所（東京会）



【講評：池田靖史氏】 BIM の設計段階を超えた本当の底力まで見通していることが明確に感じられ、最優秀に匹敵する思想的レベルの高い提案であった。 BIM で設計される建物は利用段階においても BIM の情報を活用し続けることで、従来の建築の枠を超えた価値を提供できるという視点は、情報化された仮設的空間システムを建築自体のイノベーションの有効なモデルと捉える今後に向け非常に示唆的なメッセージである。

○優秀賞（とちぎ建設技術センター理事長賞）：松本大知
「CYCLOID」

宇都宮大学大学院（栃木県）



【講評：川村定男氏】 今回は、プレゼンする方法などが変わったことからか、表現方法に様々な工夫がみられ、学生の皆さんの表現力に改めて感心した。本作品は、サイクルロードセンターとして各機能の配置がうまくまとめられており、大会時を想定したひと工夫があればと思うところはあったが、高さを抑えながら、自転車の車輪をイメージしたサイクロイドを活用した屋根など、日常の自然豊かで静かな森林公園周辺の自然環境や山並みに溶け込んだ計画となっていた。

○優秀賞（日本建築士事務所協会連合会会長賞）：上村哲也

大同大学大学院（愛知県）

「UTSUNOMIYA RinRin Park」



【講評：佐野吉彦氏】 今回のコンペでは、学生や実務者による創意あふれるB I Mの使い方を楽しむことができた。上村案は、自然と響きあう建築の実現をテーマとしているが、空間にひそむデリカシーと言うべきものを、隅々まで練り上げたプレゼンテーションを通して伝えてみせる。B I Mの持つ特性や可能性をよく理解しており、精度の高い設計を達成することができている。短時間で成果を導いた力量を評価するとともに、実務にある多くの制約の中でB I Mをいかに効果的に使うかについて、さらに経験と考察を深めることを期待する。

○優秀賞（日本建築士事務所協会連合会会長賞）：中岡進太郎

（株）安藤設計（栃木会）

「サイクルステーションみちしるべ」



【講評：佐野吉彦氏】 設計の日常とは、限られた予算やスケジュールの中で最大の成果を挙げるための奮闘である。その中で研ぎ澄まされた感覚が、多忙な社会人がこのコンペに立ち向かう時に如何なく発揮される。中岡案はB I Mにある明瞭さ・統合性などをうまく活用することによって、建築の中で最も重点とすべき空間を魅力的に計画した。内外部を通してロードレースの持つ爽快感も宿らせており、要求条件を巧みに読み解きながら、熟達度の高い成果を導き出している。